

# 迷惑情報フィルタ、拡大余地は大 新規事業は売上高200%成長へ

## トビラシステムズ 明田篤代表取締役社長に聞く



上場1年銘柄に注目

トビラシステムズ(4441)は、悪質な迷惑電話や詐欺電話を防止する迷惑情報フィルタシステム「トビラフォン」の開発・販売を行っている。4月25日に新規上場から1年を迎え、同月27日にはマザーズから東証1部への市場変更を果たした。これまでの歩みを振り返るとともに今後の展望について明田篤代表取締役社長に聞いた。

——上場1年を振り返って。

「上場企業となり、投資家・株主の皆さまの期待にどう応えていくかを意識するようになった1年だった。当社はお客さまの個人情報や警察からの情報を預かる立場にある。上場は、信頼できるセキュリティ企業といつことを広く知っていただく機会となった。採用面においても、これまでより当社に興味を持っていただく人材の幅が広がったように感じる」

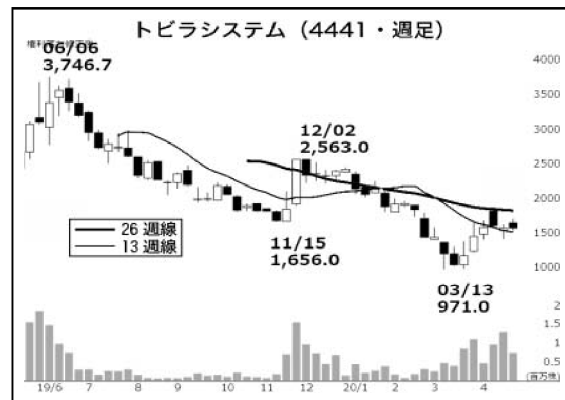
——事業環境はいかがでしょう

「当社の収益の大半は大手通信

事業者との共同の取り組みによって成り立っている。現在、当社のサービスは月間で600万人以上の方に利用されており、インフラとしてのサービスとなりつつある。現時点で新型コロナウイルスによる影響は見受けられない。むしろ、自分のスマホを社用電話として使える新サービス『トビラフォン Cloud』の販売を3月から開始したが、企業のテレワークへの切り替えが進む中で非常に多くの引き合いをいただいている」

——国内の携帯電話契約数(約1億8000万台)に

対し、当社のモバイル向けフィルタサービスの導入数は約600万。潜在的なポ



「今2020年10月期第1四半期(昨年11月〜今年1月)は売上高2億7000万円(前四半期比4・6%増)、営業利益1億円(同14・9%増)で着地。売上高は計画通り、営業利益は計画を上回る成果となった。進捗状況は順調で、期初に

からという状況なので、200%以上の成長を目指していく」  
——最後に株主還元策に対する考え、投資家の皆さまへ一言お願いします。  
「配当性向35%を目安に配当を実施する方針を打ち出した。これに伴い、今期は年10・6円(期末一括)の配当を予定している。その他自社株買いや、様々な還元策についても検討していきたい」

は詐欺メールの検知にも力を入れており、サービス対象者を拡大していくことが月間利用者数の増加にもつながる。固定向けは緩やかに縮小していく市場だが、一方で特殊詐欺の被害は固定電話で多く発生している状況にある。潜在市場に対する開拓余地は大きく、積極的に展開していく考え」

——御社の強み、特徴を教えてください。

「独自の迷惑電話番号抽出技術を用いて、迷惑電話番号に関する情報3万件以上をデータベース化している。この事業で現在、競合と呼べる企業・サービスは存在しない」  
——業績と事業の進捗をお聞かせください。  
「業績と事業の進捗をお聞かせください。」

開示した通期予想の売上高12億2700万円(前期比25%増)、営業利益4億6800万円(同15・2%増)に変更はない。もともと準備していたこともあり、社員のリモートワークもスムーズに移行できている」  
「注力する取り組みは3点。まずは既存事業の収益基盤の拡大。利用者数のさらなる拡大、協業先の開拓を進めていく。また、『トビラフォン Cloud』は、法人向けの新たな収益基盤として成長させる。中長期を見据えたさらなる内部体制の拡充にも取り組んでいく。中期の成長イメージとして、モバイル向けは年30%以上の売り上げ成長、固定向けは25%以上、法人向けの新規事業はこれ

「迷惑情報フィルタシステム」の開発提供など

企業名	トビラシステムズ
事業概要	お迷惑情報フィルタシステムの開発提供など
上場日	2019/4/25
初値	5420円 (1対3株式分割前)